

瑞穂町教育委員会
教育長 鳥海 俊身 様

瑞穂町立瑞穂第四小学校
校長 高橋 一 広
(公印省略)

令和5年度 学校評価報告書

1 自己評価

(1) 評価及び成果と課題

評価項目	評価	R4評価	成果	課題
1 学力向上	B	B	○自主学習等の学びに向かう力の育成 ○「学びに火をつける」実践	○「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実践 ○ICT機器の効果的な活用
2 健康・体力	B	A	○四小運動ウィークの実践 ○運動の日常化	○気力・体力・運動能力の向上 ○体力低下から気力低下へ
3 道徳教育	B	B	○挨拶の励行 ○なかよし川柳の実践 ○道徳授業の充実	○人権尊重教育の推進 ○思いやりシートの活用 ○「議論する道徳」の実践
4 特別支援教育	B	B	○学習の見通しをもった環境整備、ユニバーサルデザイン ○固定学級開設準備委員会	○個に応じた指導の工夫 ○関係機関との連携 ○固定学級開設に向けて
5 生活指導	A	A	○児童が安心して相談できる体制づくりの推進 ○一貫性のある指導 ○組織的対応	○関係機関との連携強化 ○基本的な生活習慣の確立 ○危機管理能力の育成
6 研修・研究	A	A	○校内研究の充実 ○校内OJTの充実	○研究・研修会への参加 ○研修内容の共有化
7 家庭・地域の連携	A	A	○教育活動の情報発信 ○開かれた学校づくり	○地域との連携及び人材活用
8 経営・組織	B	B	○校務分掌の効率化 ○工夫した授業の共有化 ○学年間での教科担当の工夫	○学校運営への参画 ○役割と責任を持たせた人材育成

2 学校関係者評価

(1) 主な活動

月日	会場	協議会内容等
令和5年7月6日	瑞穂第四小学校	令和5年度の学校経営、1学期の教育活動
令和5年11月18日	瑞穂第四小学校	教育活動中間報告
令和6年1月16日	瑞穂第四小学校	学校評価(自己、児童、保護者)、関係者評価

(3) 学校関係者評価で出た主な意見等

<ul style="list-style-type: none"> ・学校の取組に日々感謝している。 ・全体的には落ち着いて学習に取り組んでいる。学習形態も工夫がされている。 ・校外においても規範意識が高まればよいと思う。 ・児童個々が自主的に取り組む環境を家庭と協力して整えていく。 ・PTAや町会等で協力し、見守りや挨拶、積極的な声掛け等の取組を行っていく。

3 今年度の学校経営計画の実現状況について

重点事項 1	学力向上
(1)取組状況	<p>「確かな学力の向上」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習に向かう3つの構え「身構え・心構え・物構え」の徹底を図る。 ○思考力・判断力・表現力を育成する。 ○学習規律・学習習慣を確立する。 ○基礎的・基本的な学習内容を定着させる。 ○ICTの効果的な活用
(2)成果	<ul style="list-style-type: none"> ○学習に向かう姿勢「身構え・心構え・物構え」を教室や入口に掲示し、指導の徹底を図った。 ○「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図った。 ○放課後学習「学びのテーマパーク」で「自主学習ノート」や「算数ピクニック」に取り組みせ、児童が自ら進んで学ぶ力を育んだ。 ○ICT機器を、各教科のどの場面で活用したら効果的かを検証した。
(3)課題	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な考え方やしっかり考える力を引き出す実践。 ○個に応じた指導の徹底。 ○学習内容の理解に個人差がある。 ○家庭学習が定着しない、忘れ物がなくなる、などが課題である。 ○自主学習へ取り組む意欲の二極化。
(4)次年度に向けての改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な考えを引き出す授業実践。 ○児童一人一人の実態に応じた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現。 ○家庭学習の手引きに基づき、習熟度別の課題を設定し、できた喜びを味わわせる。 ○課題設定の方法やまとめ方の周知徹底を図る。また、見本ノートの掲示、管理職によるノート確認等、意欲を高める取組の強化を図る。
重点事項 2	生活指導
(1)取組状況	<p>「組織的で計画的な生活指導」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「時を守り、場を清め、礼を正す」ことを継続指導する。 ○児童が安心できる相談体制を確立する。 ○児童の危機管理能力を育成する。 ○基本的な生活習慣を身に付けさせる。
(2)成果	<ul style="list-style-type: none"> ○SCや専任相談員による全員面接等を通して、児童の居場所づくりの周知を行った。 ○子供と家庭の支援員等の関係機関と連携し、登校を渋る児童へのアプローチを行った。 ○「安全教育プログラム」や「SNS東京ノート」等を活用し、毎月の安全指導や日々の一声指導を徹底した。
(3)課題	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭との連携がなかなかとれず、不登校の解消が難しい。 ○頭でわかっているけど行動が伴わないなど、粘り強い意識付けが必要。
(4)次年度に向けての改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○組織的に「迅速・的確・誠実」な対応を行う。 ○不登校対策を組織的に行い、居場所づくりを工夫する。 ○全校児童を全教職員で見守り、社会性や規範意識を身に付けさせ、一貫性のある生活指導を実践する。

重点事項 3	道徳教育
(1)取組状況	「豊かな心の育成」
	<ul style="list-style-type: none"> ○人権意識を高め、道徳的な心情や実践力を身に付けさせる。 ○「思いやりシート」の活用や「なかよし川柳」の取組を通して、心の通う対人関係の素地を養う。 ○「人権教育プログラム」や「みずほあったか先生」の実践
(2)成果	<ul style="list-style-type: none"> ○相手を思いやり、自分から気持ちのいい挨拶や正しい言葉遣いを実践できた。 ○道徳授業地区公開講座で「ルールってなんだ？」という演題で、公認心理士の先生による講演会を実施した。 ○「考える道徳」「議論する道徳」の実践を図り、道徳的な判断力、心情、意欲と態度を育てる指導方法を工夫した。
(3)課題	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員の人権感覚を磨き、児童に模範を示すことができるよう「みずほあったか先生」を活用し、人権意識を高める。 ○「特別の教科 道徳」の授業改善を推進する。
(4)次年度に向けての改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な関わりを通して、自分の将来に夢や希望をもち、その実現に向けて挑戦しようとする態度を育てる。 ○「特別の教科 道徳」の授業を要とする教育活動全体を通して、道徳教育の充実を図る。 ○道徳授業地区公開講座のテーマを明確にし、学校・保護者・地域の相互理解を深め、連携して豊かな心の育成を図る。